

虹の大樹

JAさっぽろコミュニケーションマガジン
「にじのたいじゅ」

2025年
2月号
NO.315

協同組合という
虹のもと、
大都市に深く
根を張りそびえる
大樹のような
JAで
ありたい——

今月の特集
第2回
地区別懇談会Q&A



地物市場「とれのさと」への出荷作業
Photo by SOGA Takahiro

一年中、地場産野菜を直売所へ 家族が協力して臨む、多品目生産

石狩八幡地区 伊藤 佐智子さん

とれのさと



地物市場『とれのさと』には、冬期も出荷を続ける生産者がいる。休むことなく出荷を続ける、その思いを訪ねて！

市場出荷と並行して 多品目をとれのさとへ

伊藤農園がある石狩市高岡は、農繁期には施設園芸用のハウスや水田が一面に広がるが、現在は雪景色に変わっている。その一角に建つ倉庫では、厳しい寒さの中、直売に向けた出荷作業が行なわれていた。

「雪が降る前に収穫したキャベツを、低温管理で保存している。ほかにも馬鈴薯や玉葱、人参なども同じように保存して、冬期もとれのさとに出荷を続けています」

農園を主となり営むのは、5代目の強さん・弥生さんご夫婦だが、先代にあたる誠さん・佐智子さんご夫婦も共に営農を続ける。

作付面積は約28ha。広大な敷地で、米と馬鈴薯、人参を市場に出荷。それと並行して、地物市場『とれのさと』にも通年出荷を行なうため、多品目の野菜を生産している。

「年間30品目くらいは出して

いるかな。出荷を切らさないように、何をいつ、どのくらい出すのかを決めたり、搬入するのは私の担当だけど、生育管理やこういった出荷作業は家族みんなだね。とにかく量がすごいから…こうして通年で出荷できるのも、家族の協力があつてこそ」

諦めず続けてきたから

開店前のとれのさとには、会員が次々と搬入に訪れる。「さっちゃん、きれいなキャベツだね！」。顔を合わせた会員同士、会話が弾む。

「うちが直売所への出荷を始めたのは、平成5年、イチゴの栽培を始めた頃。石狩産のイチゴをもっと知ってもらいたかったの」

当時はまだ、直売所が一般的ではなかった時代。佐智子さんは、選果場の駐車場で有志数名が小さなテントを張って販売し



1



5



2



3



4



6

1. 各人が、担う作業を手際よく進めていく 2. 夏期は毎日、冬期は休業日以外、基本的に毎日出荷。近所の方からは、「さっちゃんの仕事ばかりしているね」と言われるそう 3. 確かな品質と売り方の工夫、そして少量でも毎日コツコツ出荷。その積み重ねで常にトップクラスの売り上げを誇る 4. 秋に収穫して貯蔵、随時出荷している馬鈴薯 5. 右から誠さん、佐智子さん、強さん、弥生さん 6. 野菜が凍らないよう、0度になったら自動で暖房が入るシステムで低温管理され、出荷を待つキャベツ

ていた時からのメンバーだ。

地場産の野菜を食べたいという消費者、そしてそれを届けたという生産者。双方の想いがあり始まった直売も、順風満帆ではなかったという。

「直売をしていること自体があまり知られていなくて、思うように売れなくて。売り子から会計まで全部自分たちでやっていたので、今とは全然違いますね」
週1回ペースで開かれていたこの直売所は、徐々にその新鮮さや美味しさが口コミで広がった。JAもサポートを行ないながら規模を拡大し、現在ののとのさとの開店に繋がった。

「よくここまで大きくなったな、みんなで頑張ってきたなって嬉しかったよね」
平成29年から冬期営業も開始したとれのさとは、多くの会員に支えられて成り立っている。

**喜んでくれる
お客さんのために**

「作業の中心は息子夫婦。3人いる孫たちが、いつも手伝ってくれるのが嬉しくて」

猛暑が続いた昨夏は、例年以上に小まめな水撒きが必要だった。

た。三世代、家族総出で手入れをし、出荷し続けた。

「去年は今時期、こんなにキャベツの在庫がなかったの。量を増やしたのもあるけれど、品種を変えて植える時期を遅らせたこともあって、今出せるものを確保できています状況」

葉がギュッと詰まったキャベツは、持つと手にずっしりと重さを感じる。過去一番の出来だと、自信を覗かせた。

野菜が収穫できる時期は、他の生産者も同じ。時期をずらして出荷する方法を模索して、低温管理に行きついた。売れるための工夫でもあるが、喜んでくれるお客さんがいること、冬場に少しでも収入があることも活力になっている。

「ここに来たらいつでも、多品目の地場産野菜が買えるように。会員同士が品質を競いながら、楽しんで出荷を続けたい。私、とれのさとの出荷に命を注いでいるから(笑)」

品質にこだわり出荷される、多種の野菜たち。伊藤家を代表して付された佐智子さんの名前とともに、これからも毎日とれのさとの棚を賑わせていく。

令和6年度

第2回地区別懇談会 Q&A

11月18日(月)から25日(月)(19日、20日、23日、24日を除く)にかけ、全14地区で地区別懇談会を開催いたしました。各懇談会には、常勤役員および参事・各室部長が2班に分かれて出席し、令和6年度の仮決算事業報告を行なった後、ご出席いただいた組合員の皆さまより貴重なご意見・ご質問をいただきました。

内部監査部門

Q 経営管理部門における「不祥事発生を招く機会の回避」並びに「再発防止策の検証」について、その内容や実施日、頻度について教えてください。(厚別・南地区)

A 各種内部監査の中で職員の理解が不足していると感じた事項については、所管部署との情報共有や研修会を開催するなど、不祥事の発生に繋がらないように取り組んでおります。また定期監事監査は5月と11月、内部監査室によるフォローアッ

プ内部監査については6月と12月に実施しております。

経営企画部門

Q1 仮決算時における事業総費用が計画よりも減少している理由は何ですか。(豊平地区)

A 事業総費用の内、事業管理費については職員の中途退職等による人件費等の減少や施設の修繕等が先送りになったことが主な要因であります。



手稲地区

Q2 経済センターの合理化や合併に係るメリット、デメリットを教えてください。(白石・琴似・南地区)

A 合併のメリットとしては、今までより地域が広がったことで事業拡大の可能性が見込める等、いわゆるスケールが大きくなったことが挙げられます。一方デメリットとしては、合併に係る事務の増加、事務統一に向けた業務負荷が挙げられます。また今後の検討課題としては両地区の施設の老朽化による設備投資が将来的に増えることが考えられます。いずれにしても経済事業の合理

化・集約化や合併に係る検証につきましては、令和6年度が終了した段階で総括し、地区別懇談会等を通じて報告させていただきます。

Q3 SNSの影響は大きいので、JAが発信しているものだけでなく、組合員が発信しているSNSの紹介等を積極的に取り組んで欲しいと思います。(石狩八幡地区)

A 現在当JAによるSNSの情報発信はLINEの公式アカウントを活用しておりますが、SNSの運用開始から年数が経っており、徐々にJAのイベント情報等を中心に情報発信を行なってきているところであります。今後はJAの総合事業を活かした情報提供や様々な地域農業の魅力を発信できるようにSNS活用の充実を進め、若い世代の方たちが興味を持つ情報発信をしていきたいと考えております。

Q4 昨年、札幌市の『広報さっぽろ』に札幌の農産物の特集が組まれていました。また今年の7月には北

北海道新聞に折り込まれる情報誌に札幌黄の特集が組まれていました。「儲かる農業」の実現のためには、行政やマスコミとコラボレーションしたPR等を積極的に行なうてはどうか。 (白石地区)

A 情報発信はJAだけでは難しいところもありますので、マスメディアと連携して取り組んでいくことが重要であると考えており、当JAもテレビ局とのつながりが少しずつ出来てきていますので、そのつながりを広げながら情報発信に取り組んでまいりたいと思います。



厚別地区

Q5 「多面的な情報発信」における取り組み状況について説明して欲しい。 (豊平地区)

A LINEの公式アカウントを活用し、イベント等の告知を行なっております。

Q6 青年部および女性部の部員が減少している理由と、若い年齢層の部員を増やす施策は何か考えているのですか。 (厚別・平岸地区)

A 若い年齢層の方は勤めている人が多く、なかなか加入していただくことが難しいですが、組合にとって大切な組織ですので積極的に加入促進の声掛けをしていきたいと考えております。

総務部門

Q1 農林中央金庫の経営状況の報道に関し、当JAへの影響はありますか。また当JAに出資を求めていることはありますか。

(豊平・新琴似・南地区)

A 当JAへの直接的な影響は想定しておりません。また各信連は農林中央金庫から増資を要請されておりますが、当JAが出資を求められることは無いと聞いております。

Q2 新入職員の採用も必要ですが、育成には相当な期間がかかるものだと思います。一度退職された方を再雇用するために、待遇を厚くして即戦力として採用する等の検討をお願いしたいと思います。また定年延長等の検討はしているのですか。 (南地区)

A 当JAは現在60歳が定年で65歳まで再雇用となっております。現時点で具体的な協議は行なわれておりませんが、将来的に検討しなければならぬと考えております。当JAの職員の世代構成は50代がとても多く中間層が少なくなっていますので、そういった特徴を踏まえながら検討してまいります。

Q3 経済部門の職員が不足していると感じており、業務に精通した職員に代わり、経験不足の職員が配置された場合、業務が円滑に進まないのではないかと心配です。適正な人員配置をお願いしたい。 (石狩花畔・北札幌・南地区)

A 経済部門に限らず、各部署にて人員不足が発生している状況です。原因としては中途退職によるものですが、後任の労働力確保が困難な状況であり、中途採用を実施していますが人員不足解消にはいたっておりません。中途退職への対策として働きやすい環境の構築を図りたいと考えております。また人員配置については次年度に向け検討してまいります。



琴似地区

Q 4 災害発生時の地域住民への物資提供訓練を実施したとありますが、具体的にどのようなことを実施したのですか。
(手稲地区)

A 『とれのさと』は災害発生時に食料品の提供や情報発信の拠点となる建物に指定されていることから、1 統括支店1 協同活動と併せて万が一の災害時に備え、カレーを炊き出して地域住民に提供いたしました。また設備として3 日間程度携帯電話の充電ができる非常用電源も備えております。

金融部門

Q 今年度、新たに発生した不良債権はありますか。
(厚別地区)

A 新たに発生した不良債権はありません。なお令和5 年度末の不良債権比率は0・38%となっており、道内J Aの平均よりも低い状況となっております。今後も新たな不良債権が発生しないよう取り組んでまいります。

相談部門

Q 相談事業において「賃貸物件の資産価値を低下させないよう、性能維持や時代に沿った営繕提案を行なった」とありますが、どのような提案を行なったのですか。
(豊平地区)

A 近年の夏の気温上昇に伴い、エアコン設置をオーナーに提案しております。また女性目線の提案として、料理中にお子様が見えるキッチンレイアウトや玄関フールドを設置する等の提案を行っております。



豊平地区

経済・営農販売部門

Q 1 経済事業の事業概況の中で、購買事業の「肥料・種苗・温床資材などの供給高が減少した」とありますが、その理由を説明して欲しい。
(豊平地区)

A 令和6 年度の計画値は、令和5 年の状況を見込んだ計画としておりました。令和5 年は猛暑により種の蒔き直しが多かった年でしたが、今年度は例年通り推移し大きな影響を受けなかったため、計画を下回っております。

Q 2 J Aコネクットの活用状況について説明して欲しい。
(豊平地区)

A 石狩地区では、F A X機能を兼ねた活用や農業改良普及センターと連携した情報発信を行っております。今後も会議の開催案内や野菜の出荷量等の連絡にJ Aコネクットを活用していきたいと考えております。



西町地区

Q 3 直売所におけるSNSの活用状況について説明して欲しい。
(豊平地区)

A 『とれのさと』ではInstagram を開設しており、札幌地区の『とれたっこ』を含め情報発信を行っております。今後も各直売所のイベント情報等をInstagram で発信し、登録者数を増やしていきたいと考えております。

Q 4 札幌伝統野菜はJ Aさつぽろのブランド化を目的に取り組み始め

た経過があると思いますが、今後の展望について説明して欲しい。

(豊平地区)

A 札幌伝統野菜はブランド化されており、次期農業振興計画においても新しい販売方法の検討を掲げています。今後具体的な方向性を協議してまいります。

Q5 JAさっぽろの直売所にし、名称を『とれのさと』に統一する考えはないのですか。また『とれのさと』は農協らしさを感じてお



石狩花畔地区

り、札幌市内に『とれのさと』のような直売所を検討する考えはないのですか。(石狩花畔・平岸・南地区)

A 『とれのさと』、『とれたてっし』共に売上は目標を上回る状況となっております。現在の小規模店舗のままでは売上等に限界があると感じており、大きい店舗の設置について避けて通れない課題であるとも感じております。令和7年度から始まる次期中期3カ年経営計画の期間の中で協議してまいります。

Q6 農水省の野菜の適正な価格転嫁に向けて議論する作業部会が開催されましたが、生産に必要なコストは上がり所得は下がっています。JAさっぽろとして農産物を適正な価格で販売するために、今後どのような施策を考えているのですか。

(南地区)

A JAとしては、再生産価格に見合う適正価格を消費者に理解してもらうことが使命であると考えております。現在5ヶ所ある直売所を通して適正価格を理解してもらいながら



石狩八幡地区

販売していきたいと考えております。

Q7 最近よく、耕運機等の自動化について耳にします。当JAではどのような取り組みを行なっているのですか。

(南地区)

A 石狩地区では特にプロッコリーの定植の際に自動操舵できる定植機を使用しております。ただし小面積での使用は難しいことから、札幌地区では玉葱生産者を中心に今後の導入について検討する等、気運が高まっています。またドローンにつ

いては住宅街の規制、自衛隊や飛行場等の規制があり、札幌地区では使用可能な区域が限られてしまっています。今年度から営農サポート事業として札幌地区の組合員も試験的ではありますが除草剤散布を実施しており、少しずつスマート農業の取り組みを広げていきたいと考えております。

次期中期3カ年経営計画・地域農業振興計画関連

Q1 次期中期3カ年経営計画の経営管理部門において、「経営統制の構築に向けた経営改善・業務体制等の再構築」とありますが、今後大きな体制の変更等を考えているのですか。

(琴似地区)

A 現時点で体制変更等の明確な予定はございません。ただ常に各事業部門の事業推進に合わせて今の体制で良いのかどうか、組合員の皆さまからの意見を聞きながら業務の効率化や新たな体制を検討する等、取り組んでまいりたいと考えております。

Q2 地域農業振興計画に掲げている重点取組事項について、現時点で具体的な協議は行なわれているのですか。
(石狩八幡地区)

A 地域農業振興計画の策定は、組合員皆さまからの意向調査結果や生産部会との意見交換等を参考に経済事業担当者を中心に各部門から選出されたプロジェクトチームによる協議により原案づくりを進めてきており、地域農業振興計画に掲げられた重点取組事項や取り組むべき方策に対する具体的な取り組み内容については、経済事業部門の部門別計画に位置付けるものとし策定協議を行なっております。

Q3 地域農業振興計画において、消費者と生産者との関わり合いについて何か考えていないのですか。
(石狩八幡地区)

A 計画の「販売力を高める」の中に消費者に対するPRも含めております。SNSを通して消費者へPR・宣伝することは効果が大きいので、今後はもっと具体的な部分を加えて

いきたいと考えております。また次期中期3カ年経営計画における経営管理部門の「アグリアクション北海道の推進に基づくJ.A.さっぽろサポーターづくり」にあるように、消費者の方にどのように札幌・石狩の農業・農産物を知ってもらい、そして消費してもらうかが重要であると考えており、組織を挙げて取り組んでまいります。

Q4 地域農業振興計画において、「農産物直売所を拠点とした販売力の強化」と掲げているので、販売方

法等を工夫し売り上げ強化をお願いしたい。
(琴似地区)

A 『とれたてっこ西』においては、今年度道路沿いの敷地内に簡易テントを張り、アスパラやイチゴといった農産物を販売しました。札幌市内の直売所に出荷している生産者は高齢となってきたり、出荷量も減少傾向にあることから、状況によっては直売所の集約も検討しなければならず、そのようなことも含めて次期中期3カ年経営計画の期間中で直売所の在り方等を考えながら、当J.A.の農産物をPRしていきたいと考えております。

Q5 地域農業振興計画の中で、生産力を高めるため「産地化(ブランド化)の推進」とありますが、どのような農産物をブランド化したいと考えているのですか。
(平岸地区)

A 旧J.A.いしかり時代に、石狩市農業総合支援センターより試験圃場という形で、様々な作物を試験栽培し、品目選定までは至らなかったものの『とれたて』で販売した経過



平岸地区

がございます。また青年部を中心にさつまいもや落花生を栽培できる状況になってきております。今後協議していかなければならない問題と捉えておりますが、札幌黄ほかブランドとする品目が多い地域であり、札幌農産物はもちろんのこと、石狩地区で栽培しているさつまいもや落花生等を含めて検討してまいります。

プライバシーに関する質問や、過去同様のご質問につきましては割愛させていただきますのでご了承ください。



中央地区

組合員親睦 大新年会

in 定山溪万世閣ホテルミリオナーネ

年明け1月8日(水)から2泊3日で、5年ぶりとなる「大新年会」を開催しました。温泉でのんびり過ごしなが、イベントや大新年会をお楽しみいただいた様子をご紹介します。



「和心ブラザーズ」コンサート

国内外で演奏を重ねる和楽器ユニット・和心ブラザーズ。広い会場だったので、「寒い〜」という方もいたのですが、太鼓を叩くしんたさんはなんとノースリーブで登場！この衣装も納得の、全身を使った熱い太鼓をご披露いただきました。

太鼓に併せて三味線奏者の新田さんが奏でるのは、お馴染みの昭和歌謡からディズニーマの楽曲まで、幅広いジャンルの曲。同じ旋律でも洋楽器と和楽器とでは感じ方が随分違うものですね。「和の心」を存分に感じました。



手拍子で参加するコーナーもありましたが、なかなか揃わず笑いが起きる場面も。



身体でリズムを取り、手拍子を打ちながら、演奏を楽しみました。



会場に響く和の音色。曲が終わるたびに盛大な拍手が送られました。

大宴会・栗原ちあき歌謡ショー

2日目の夜に行なわれたメインイベント。軽部組合員、須合副組合長に加え、南地区の荒井三和さんと北札幌地区の土谷真理子さんにもご登壇いただき、鏡開きからスタートしました。

程よくお酒も進んだところで演歌歌手・栗原ちあきさんの歌謡ショーが開演。新年会にふさわしい明るい笑顔とトークで場を盛り上げながら、自身の持ち歌や八代亜紀さんの舟歌などをたっぷりお聴かせいただきました。



皆さまにとって幸多き1年になることを祈願して！



ふんわり木の香りがする樽酒はとっても美味。

お楽しみ抽選会。引く方がドキドキする…と言いながら抽選を行なう須合副組合長。



お食事を楽しみながら、栗原さんのショーを鑑賞。

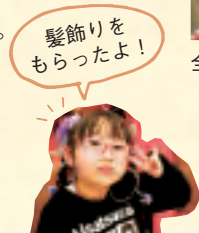


全身おひねりでいっっぱい。

組合長賞、最後の1本！



おめでとうございます！



歌いながら会場を回り、皆さんと握手をする栗原さん。



地区の垣根を越えて！



宴もたけなわとなり、乾杯で宴を終えました。

「年齢性別・国籍問わず、誰もが楽しめる」 和太鼓の魅力伝え続ける伝承者

祭りや盆踊りなどの伝統行事に欠かすことができない楽器・和太鼓。幼少期からその道で才覚を現し、和太鼓・民謡太鼓奏者として活躍しながら、多くの方にその魅力を伝え続けている新琴似地区組合員の荒川寿彦さんをご紹介します。

◎和太鼓を始めたきっかけは？

A. 祖母が民謡を唄い、父が三味線を演奏する環境で育ったので、幼い頃から和楽器が身近にありました。三味線も手に取りましたが馴染めなくて、でも太鼓は、楽しい！という感覚が最初からあったように思います。

6歳くらいのとき、大通公園の北海盆踊りを見て、櫓で叩かれている太鼓に感動したんです。それで、いつかあそこで太鼓を叩きたいと思い、小学生のうちには父に教わっていました。中学生になってからは初代・瀬川実巖に師事しました。

初代は僕が感動したあの北海盆踊りで、太鼓を叩いていた方です。月1回の稽古を重ね、高校1年生のときついに、憧れの北海盆踊りで叩けることになりました。

◎憧れの北海盆踊りデビューは、いかがでしたか？

A. 全然上手く叩けなくて、悔しかったですね。

現在の盆踊り大会は6日間ですが、当時は8日間。和太鼓は2台で、2時間途切れないように打ち続けるため、打手は1台につき7人ずつ、14人が交代で打つんです。1人3分程を順々に回して、だいたい20分に1回出番が来ます。

交代のタイミングって、アイコンタクトなんです。打ちながら、そろそろ交代…という時に、さっと次の奏者の目を見る。それで言葉も交わさず、リズムを崩すこともなく交代するのがとても難しいんです。

盆踊りの中で太鼓は、いわばオーケストラの指揮者なんです。太鼓のリズムが崩れると横笛も踊りも、全てのリズムが崩れることになるので、いかにスムーズに引き継いで、一定の速度で打ち続けるかが重要なんです。

意気込んで臨んだ初年度、「リズムが合っていないから今日は帰りなさい」、そう言われて帰されました。それが本当に悔しくて。翌日、今日こそ



は！という思いで会場に向かいました。その翌年からも、毎年会場で叩かせてはもらえましたが、やっぱり帰される日がありましたね。それでも、もういいや…という気持ちにはならなかったです。4年目になってようやく、帰れと言われなくなりました。

◎その時から現在までずっと、大通公園の櫓に立ち続けていると伺います。もう、一番のベテランですよ？

A. そうですね(笑)。太鼓・横笛・踊り手、会場の息を揃え、僕の「ハイ、ヨー！」という掛け声とともに踊りを始め、「〇時〇分に終わります」というアナウンスに合わせて、テレビ塔の

新琴似地区

荒川 寿彦さん

●あらかわ としひこ

6歳で太鼓を始め、地元の盆踊りで盆太鼓を演奏。13歳で初代・瀬川実巖に和太鼓・民謡太鼓を師事、33歳で日本民謡鳴り物実巖流二代目家元「瀬川実巖」を襲名。大通公園で開催される北海盆踊りを始め、地域の祭り、各種国際会議レセプション等でも演奏するほか、太鼓指導、YOSAKOIソーラン祭りでの太鼓指導・演出も手がけるなど、その活躍は多岐にわたる。北海道民謡連盟事務局長・北海道民謡連盟太鼓副指導委員・札幌民謡連盟太鼓指導委員・札幌太鼓連合会事務局長。

令和6年11月、北海道地域文化選奨特別賞受賞。



札幌市大通公園の盆踊り。和太鼓を始め、きつかけとなつた、大通公園の盆踊り。和太鼓を叩き続ける。

時刻を見ながら太鼓を叩く速度を速めていき、踊りを終わらせる役目を担っています。

踊りつて、急に止められないじゃないですか。だから、太鼓を叩く速度を速めていって、最後には踊れないくらいになった踊り手たちは、その場で立ち止まり手拍子で太鼓に合わせる。会場全体が太鼓の早打ちに手拍子をし、それが最高潮に達したら打つのを止めます。手拍子が拍手となって会場を包んで：その会場の一体感と達成感は、言葉では言い表せません。

太鼓を習いに来ている生徒の中から何人かデビューさせて、打ち手を育てているところです。

Q 生徒さんは何人くらい、いらっしやるんですか？

A. 子どもから大人まで、1000人くらいです。自宅に併設の道場で週2回、石狩ではカルチャーセンターを借りて月2回、教室を開いています。そ

の他にも、札幌市内のカルチャースクールで講師を務めたり、旅行で来日した外国の方が、ホテルのフロントを通じて連絡してきたり(笑)。結構多いんですよ、和太鼓を叩いてみたいという旅行者。日本語学校からの依頼で教えることもありますし、年間200人くらいの外国人に体験してもらっているんじゃないかな。

Q 外国の方にも教えているんですね！英語がお得意になるんですか？

A. いいえ、喋れません！本当に片言の英語と、身振り手振りで。それだけで充分ですよ。

例えば、日本に来て食べたものは？とか、好きな日本食は？と聞く。ラーメンとか焼きそばとか、答えが返ってきますよね。その単語の響きから、即興で曲を作るんです。「ラーメン、焼きそば、うどん、うどんー」単語を口にしながら太鼓を叩くと、ただ単に「ドンドン、ドドン」と言われるよりも、打ちやすいと思いませんか。食べ物記憶と単語の響きが太鼓の音と合わさって、笑いながら楽しんで打つてくれます。

Q 面白い教え方ですね。外国の方向けに考案したのですか？

A. もともと、子ども向けに考えた方法なんです。小さな子どもに教える時に、どうやったら楽しみながら叩いてもらえるかな、と。外国人を受け入

れる時に、あ、あの方法が使えるな！と思いついて。

実は僕、13歳から太鼓を教えているんですよ。小学生の時に和太鼓少年団が地元にあつて、そこに加入していたんですが、卒業後に後輩の指導を頼まれました。そこからずっと教えるということを続けてきて：現在の生徒は9割が女性。主婦の方も多いです。年齢性別、国籍も関係なく、誰でもわかりやすく楽しめるのが太鼓の魅力だなと思っています。その楽しさ、魅力を伝え、打ち手を増やしていきたいと思っています。

Q YOSAKOIソーラン祭りの新琴似会場等で地元を盛り上げる「新琴似太鼓保存会」は、荒川さんが創設されたと伺いました。これもその魅力を伝える活動のひとつですか？

A. 結果的にはそこにも繋がっています。創設したのは16歳の時。和太鼓少年団で後輩の指導に当たっていて、僕は卒業してもこのように太鼓を叩く



これまでの地域文化への貢献に対し、令和6年度北海道地域文化選奨特別賞を受賞。鈴木知事から表彰状を受け取った。

場があるけれど、この子たちは卒業したらもう太鼓から離れてしまう。叩きたくても叩く場がないじゃないかと。だったら、その場を作りたいと考え、父に相談して創設しました。

活動の主は地元の祭りでの演奏で、JAさつぽろ新琴似地区のお祭りにも呼んでもらったことがありますよ！未成年ですら代表を名乗ることも、太鼓などを車で運ぶこともできませんから、ある程度の歳になるまでは父に裏方業務をサポートしてもらっています。今でも代表として会を支えてもらい、感謝しています。

Q 最後に、これからの活動についてお聞かせください。

A. 女性の叩く太鼓ももちろん良いのですが、男性が力強く叩く太鼓も、和太鼓の魅力のひとつ。男性の打ち手を増やす活動もしていきたいですね。あとは、インバウンドで来てくれる外国人向けのショーや体験会を企画して、魅力を伝え続けられると嬉しいですね。

日本各地に和太鼓の名士と呼ばれる方がいて、訪ねてお話を聞くことがあります。ですが、「自分が間違えたときは、素直に誤りを認めて謝ること」というのが、長野の先生の教えです。教える立場の人間が決して偉いわけではない、人間なんだから間違えることもある、というその言葉を胸に刻み、邁進していきたいと思っています。

11/26㊦ 講演会

講師は「奥芝商店」創設者・奥芝洋介さん 経営者としての考え方を学ぶ

青年部本部(大畑一郎部長)では、「講演会」を札幌グランドホテルで開催し、部員および部員の家族 27 名、役職員 11 名が参加しました。

この行事は、青年部への帰属意識の向上および仲間同士の連帯感の醸成を目的として行なわれている恒例行事。今年度はスープカレーのコラボ企画でもお世話になっている、スープカレー専門店「奥芝商店」創設者の奥芝洋介さんに講師を依頼し、経営学をテーマにお話いただきました。

また講演会の前には、伊藤博之総料理長に考案いただいた、JAさっぽろの生産物を使用したメニュー「札幌黄玉葱と古川ポークを使用したカツカレー」、「北海道小林牧場物語さわやか牛乳を使用したアイスクリーム」が提供され、歓談しながら食事を楽しみました。

大畑部長は、「今年も奥芝商店とのコラボ企画を始め、多くの事業に取り組んできました。今日の講演内容で個々のモチベーションも上がったことと思いますので、これからもさまざまな形で青年部員が生産したJAさっぽろの農産物をPRしていきましょう」と話していました。



奥芝洋介さんは、スープカレー店の経営やネット販売のほか、被災地への炊き出し支援やSDGs活動など多方面にわたり活躍をされている方。経営者としての考え方を聞いてみたいとの声が多数あり、講師をお願いしました。心が熱くなる講演に、拍手が鳴りやみませんでした。



奥芝さん(前列・右から5番目)を囲んで記念撮影。

12/13㊦ 支部対抗親睦ボウリング大会兼忘年会

団体優勝は白石支部！

部員・事務局合わせて58名が一堂に会し、交流を深める

青年部本部(大畑一郎部長)では、GiGO BOWL ノルベサにて支部対抗親睦ボウリング大会兼忘年会を開催し、部員 45 名、事務局 13 名が参加しました。

各レーン代表による始球式の後、一斉にゲームをスタート。ストライクやスペアが決まると、ハイタッチや拍手で称え合いながら、白熱したゲームが繰り広げられました。

ボウリング大会終了後は、サッポロノルベサビール園に会場を移し、表彰式を兼ねた忘年会を開催。ジンギスカンを食べながら談笑し、交流を深めました。大畑部長は「多くの部員が一堂に会し、ボウリングやジンギスカンを共に楽しめたことを嬉しく思います。この親睦の輪を、今後の青年部活動に活かしていきましょう」と話していました。



白石支部の皆さん。2ゲームのスコア平均で競い合い、準優勝の厚別支部とは3.5点差の接戦でした。

美味しいビールとジンギスカンを囲み、会話が弾みます。



個人優勝は
2ゲーム合計335点
平岸支部の吉田晃さん





開運への導きの神として崇められている、近江神宮にて。

資産管理部会北札幌支部(橋場武夫支部長)と女性部北札幌支部(土谷眞理子支部長)では、部員11名と職員1名が参加し、近畿・中部地方へ2泊3日の合同研修旅行を行いました。

初日は丘珠から名古屋へ飛び、石山寺や近江神宮を参拝。京都に移動し、「京の台所」として親しまれている錦市場で地元ならではの加工品やお菓子などの面白い物を楽しみました。翌日は大阪城見学に始まり、あべのハルカス展望台から絶景を一望。夜は旅の思い出を肴に、大いに盛り上がりました。

両支部長は「部員皆様さんのご協力により、無事に旅を終えました。親交も更に深まり、今後の事業にも繋げられる良い旅行となりました」と話していました。(稲村特派員)

10/8(木)
~10

資産管理部会・女性部 北札幌支部
近畿・中部方面へ研修旅行
親交を更に深めた3日間



落語鑑賞の後、笑生十八番さん(前列中央)を囲んで昼食を取り、楽しいひと時を過ごしました。

女性部北札幌支部(土谷眞理子支部長)では、部員12名と職員2名が参加し、支店2階会議室において落語家・笑生十八番さんの落語鑑賞会を行いました。

軽快な語り口で早々に部員の皆さんの心を掴んだ笑生十八番さん。古典落語「時そば」では、誰もが一度はテレビで見聞きしたことがある、あの扇子を箸に見立てて蕎麦をすすする仕草を披露し、話に引き込みました。古典落語の後、部員の皆さんの身近な話題や世間話から話を展開、会場は笑いの渦に包まれました。(稲村特派員)

10/16(木)

女性部 北札幌支部
笑生十八番さんの落語鑑賞
会場は笑いの渦に



北海道セキスイハイム岩見沢工場にて。研修後はサッポロビール園にて懇親会を開催し、情報交換をしながら親交を深めることができました。

資産管理部会本部(高橋宣男部長)では、部員19名と職員15名が参加し、ハウスメーカー2社への視察見学研修会を開催しました。

北海道セキスイハイムは、独自のユニット工法で住宅建築のほぼすべてを工場生産しており、工場生産ならではの精密な作業と、鉄骨造の頑強な耐震性が特徴のハウスメーカー。生産ラインやモデルハウス、隣接するグループ企業の工場で建築資材を製造する様子を見学しました。

また住友林業のショールームでは、木材を豊富に使用した見た目にも温かい家づくりを動画で解説していただきました。様々な最新式の住宅設備も展示してあり、楽しみながら見学することができました。(川合特派員)

10/25(金)

資産管理部会 本部
ハウスメーカーへ視察研修
家づくりへの知見を深める



「プレミアム」という名の通り、特別感とたくさんの驚きがあったツアーでしたが、特にフィールドの壮大さは圧巻！観戦するだけではわからないその壮大さに、一同感激しきりでした。

青年部白石支部(飯島則勝支部長)では、エスコンフィールド北海道への日帰り視察研修を実施し、部員5名と職員2名が参加しました。
現地へは貸し切りバスではなく、JRとバスで移動。普段なかなか乗車する機会のないJRからの景色は、とても新鮮に感じられました。エスコンフィールドでは、選手エリアにも足を踏み入れられるプレミアムツアーに参加。7人で和気あいあいと喋りながら、ツアーを楽しみました。
(福井特派員)

11/15(金)

青年部 白石支部
エスコンへ日帰り視察研修
フィールドの壮大さに感激



「土の館」での研修の後には、JAふらの本店へ。同JA経済部職員と意見交換会を行なったほか、老朽化・人手不足解消を目的として令和3年に新設された、扇山玉葱選果場を見学。人工知能(AI)を採用したカメラ選別システム、パレットの自動積み上げ・収納を取り入れた倉庫は最新技術が満載でした。

青年部篠路支部(武田慈喜支部長)では、部員6名と職員3名が参加し、富良野方面への日帰り研修旅行、通称「練成会」を実施しました。「練成会」は、同支部が年に一度、営農の技術向上等を目的として実施している研修旅行。今年度は新規就農の部員とともに土づくりの大切さを学ぶため、行先は上富良野町「土の博物館 土の館」に決定しました。館内見学に続き行なった座学では、湿害や高温障害への対策を学んだほか、篠路支部のためにご用意いただいた10年後・20年後の気温と降水量予想データから、今後どのような土づくりや営農を行なうべきかを学びました。
(日下特派員)

11/15(金)

青年部 篠路支部
技術向上が目的の研修旅行
「土の館」とJAふらのへ

北海道神宮で例年勤労感謝の日に行なわれる新嘗祭に合わせ、中央支店では組合員が生産した野菜などを彩りよく並べた宝船2艘、「豊作丸」「繁栄丸」を奉献しました。この取り組みは、収穫への感謝と翌年の豊穡への願いを込めた恒例行事。5名の職員等が中心となり制作した宝船は、軽部組合長(写真中央)と渡守統括支店長(写真右)が奉納、本殿入口の両サイドに設置されました。

11/23(土) 中央支店
感謝と願いを込めて
今年も新嘗祭に宝船奉献



アクセス札幌で開催された「にぎわい市場2024」。

経営企画部・経済部・営農販売部・共済部が連携して出展しました。玉葱・じゃがいもの詰め放題は、イベントの目玉企画として告知されており、3日間で3,000人を超えるお客様が訪れました。地物市場『とれのさと』の野菜と加工品販売、共済部のお見積りキャンペーンと共済相談会にも多くのお客様にお立ち寄りいただき、賑わいを見せました。

11/22(金)~24(日)

にぎわい市場2024 出展
詰め放題に長い列
直売や共済相談会も実施





長く寝かせる程に味が熟成される仕込み味噌。その熟成具合で自分好みの味にできるのも特徴のひとつです。

女性部篠路支部(嶋知子支部長)では、部員6名と職員4名が参加し、さとらんどで味噌づくりを行いました。

同支部では20年前から味噌づくりを行なっており、一度食べたらずめられないその美味しさから、恒例行事となっており、使用した大豆は約60kg。部員の皆さんは、蒸しあがった熱々の大豆を機械ですり潰し、丸めていく一連の作業を手際よく行ない、各々の樽に仕込んでいきました。

嶋支部長は「味噌づくりは力仕事も多いので、職員の協力は助かります。お昼には昨年仕込んだ味噌と地元産の野菜を使った豚汁も皆で食べ、楽しい時間を過ごせました」と話していました。

11/19(火)

女性部 篠路支部

一度食べたらずめられない！
恒例の味噌づくり、今年も



交流会終了後、中央卸売市場内で昼食会。厚沢部地区の皆さんからは、「時間があっという間で、もう少し話したかった」「今後の活動のヒントを得られた」などの感想をいただきました。

女性部本部(菅原利恵部長)では、JA新はこだて女性部厚沢部地区との交流会を行ない、本部三役が参加しました。

同女性部とは、全道女性大会等を介して部長同士が親交を温めてきたことに始まり、さとらんど「たまねぎフェア」で女性部本部が販売している特製豚汁に、厚沢部地区の皆さんが製造している味噌を使用しているという縁。先方より、ぜひ互いの活動について話す場を持ちたいとお話をいただき、開催の運びとなりました。

活動紹介やそれに対する質問が活発に成され、時間を超過してもなお話は尽きず、菅原部長は、「女性部活動の在り方など、参考となる話がたくさん聞け、刺激を受けました」と話していました。

11/29(金)

女性部 本部

函館厚沢部地区との交流会
活動紹介に活発な質疑応答



青年部豊平支部(桑島誠支部長)では、部員4名と職員21名が参加し、GIGOBOWLノルベサにて青年部・職員合同ボウリング大会を開催しました。

この行事は、青年部員と清田支店職員が親睦を図る目的で例年開催されており、部員と職員の混合で編成されたチームごとにスコアを競いました。

ストライクやスペアが決まると、ハイタッチや拍手で称え合い、笑い声を響かせながら2ゲームを実施。大会終了後は、近くの居酒屋に会場を移し、表彰式を兼ねた懇親会で親交を深めました。

(山本特派員)

11/29(金)

青年部 豊平支部

ボウリング大会と懇親会で
支店職員と親交を深める





「おもてなし」の気持ちで、JAさっぽろ産食材を使用したカレーライスを用意し、お二人に召し上がっていただきました。小林支部長は、「部員の皆さんはもちろん、関係者皆さんにご協力いただき、おもてなしをすることができました。また座談会では、多くの意見が出ましたので、次年度の活動に活かしていきたいです」と話していました。

お二人には番組の裏話のほか、ごさんこワイド179でお馴染みの「お絵かきですよ！」のセットを使用したクイズなどをご用意いただき、終始笑いの絶えない、楽しい時間を過ごしました。
(須澤特派員)

12/4(水)

女性部 厚別支部

座談会とトークショー開催
終始笑いの絶えない時間に

女性部厚別支部(小林徳子支部長)では、部員33名が参加し、厚別支店3階JAホールで座談会とトークショーを開催しました。

年度の行事を振り返り、交わした意見を次年度の活動へ活かす座談会は恒例行事。同支部では、部員の皆さんに楽しんで参加してもらうため、例年座談会と併せてさまざまな企画を行っており、今年はSTVアナウンサー・福永俊介さんと宇都宮庸子さんをお招きしてトークショーが開催されました。

12/5(木)

資産管理部会・青色申告会 本部

両部会合同の研修会を開催
知識と親交を深める

資産管理部会(高橋宣男部会長)と青色申告会(宮崎龍浩会長)では、会員52名が参加し、札幌グランドホテルにて合同研修会を開催しました。

講師には、医療法人札幌ハートセンター理事兼CCMOの佐藤勝彦氏をお招きし、動脈硬化についてお話いただきました。「動脈硬化は血管の病気で遅らせることができる。生活習慣を見直し、健康な生活を送って欲しい」とのお話に、部会員はご自身の身近なテーマとして興味深く耳を傾け、質疑応答では熱心な質問が寄せられました。その後の懇親会では、両部会員が一堂に会する貴重な場として、大いに親睦を深めることができました。
(大久保特派員)



新生JAさっぽろとして開催する初の合同研修会。講演テーマは「動脈硬化をあなどるなかれ！～静かに忍び寄り突然死の危険～」。

12/3(火)

新琴似支店 年金友の会

日帰り旅行で入浴と昼食
南区駒岡・保養センターへ

新琴似支店年金友の会(高橋八志吉会長)では、会員10名と職員2名が参加し、市内への日帰り研修旅行を実施しました。御膳に並んだ「季節膳コース」は、天ぷら、煮物、鍋に茶碗蒸しなど、ボリュームのある和食フルコース。談笑しながら食事を堪能し、会員・職員相互の親睦を深める宴席を楽みました。
(松永特派員)



12/5(木)

篠路支店 若葉の会

80歳以上の支店正組合員へ
心を込めて絵はがきづくり

篠路支店若葉の会では、部員9名が参加し、マスキングテープを使った絵はがき作りを行いました。同会では、9月と12月の年2回、この絵はがき作りを行っており、敬老の日とクリスマスに届くよう、メッセージを付してはがきを郵送しています。届け先は、篠路支店80歳以上の正組合員。素敵なクリスマススマスのなるよう、一枚一枚、温かい一言を添えていきましました。
(真鍋特派員)



「自筆証書遺言書保管制度」をご存知ですか？

ご自身の財産をどのように残したいか、意志や想いを伝えるために残す「遺言書」。公証役場で作成する「公正証書遺言」に比べ「自筆証書遺言」は、自分で作成できる手軽さや自由度の高さから作成される方も多くいらっしゃいますが、自由度が高い一方で「紛失」や「改ざんされる危険性」、「相続人に発見されない可能性」といったデメリットもあります。それを解消する手段として令和2年7月に始まったのが、法務局の「自筆証書遺言書保管制度」です。

今月号の不動産プラザ通信では、遺言書作成の重要性を改めて確認するとともに、「自筆証書遺言書保管制度」についてお知らせします。

1 遺言書の重要性

遺言書は… ●被相続人にとっては「意思を形にする手段」 ●相続人にとっては「円滑な相続を実現するもの」

財産の内容を明確にし、分配の指示を具体的に示すことで、家族間の争いを防ぎ、迅速かつ適切な相続手続が実現されます。遺言書を残すことで、被相続人・相続人双方にとって安心を得ることにつながります。

■遺言書のメリット(例)

| | |
|----------|--|
| 意思の実現 | 被相続人の意思を明確に反映し、希望どおりの財産分配を実現できる。 |
| 家族間の争い防止 | 遺産分割に関する指示を明確にすることで、相続人同士のトラブルや争いを未然に防ぐことができる。 |
| 財産管理の透明化 | 財産の全体像を遺言書に記載することで、相続人が財産を把握しやすくなり、負担が軽減される。 |
| 迅速な相続手続 | 遺言書があれば、遺産分割協議が不要となり、相続手続がスムーズになる。 |
| 公平な分配の実現 | 法定相続では難しい事情(例：生活状況や特定の相続人への配慮)を考慮した分配が可能となる。 |
| 財産の散逸防止 | 財産が意図しない形で消失したり、不適切に利用されたりするリスクを防ぐことができる。 |
| 感謝や愛情の伝達 | 遺言書を通じて家族や受取人に感謝や思いを伝え、心のつながりを深めるきっかけにもなる。 |

2 遺言書の種類

主な遺言書の種類は… ●公証役場で作成・保管する「公正証書遺言」 ●遺言者自身で作成する「自筆証書遺言」

財産の価格に応じた手数料がかかる公正証書遺言に対し、自筆証書遺言は自分だけで作成でき、費用もかからず手軽で自由度の高いものです。ただし、自筆の遺言書は自宅で保管されていることが多く、紛失や改ざんされる危険性があるなどのデメリットがあります。また、遺言の方式不備で遺言が無効になってしまったり、相続人などに発見されないまま、遺産分割協議がされてしまうなどのリスクもあります。

3 法務局による自筆証書遺言書の保管

法務局に自筆証書遺言書を預けることで、上記のようなデメリットやリスクを回避することができます(但し、法務局では遺言書の内容の助言・審査は行なわれませんので有効性の問題は残ります)。所定の保管申請料はかかりますが、手軽さや自由度は損なわれません。詳細につきましては、今号に折込のチラシをご覧ください。

■自筆証書遺言と公正証書遺言の特徴比較

| | 自筆証書遺言(民法968条) | | 公正証書遺言 |
|----------|---|------------------|--|
| | 法務局の保管制度利用なし | 法務局の保管制度利用あり | |
| 作成方法 | ・遺言者本人(15歳以上)が遺言書の全文(財産目録を除く。)、日付および氏名を自書さえできれば一人で作成することができる。 ・証人は不要 | | ・公証人関与の下、2名以上の証人が立ち会って行なう。 ・公証人は、遺言能力や遺言の内容の有効性確認、遺言内容の助言等を行なう。 ・遺言者が病気等で公証役場に出向けない場合、公証人が出張して作成できる。 |
| 保管方法 | 自宅など適宜の方法で保管 | 法務局で保管 | 公証役場で保管 |
| 費用 | 不要 | 保管申請手数料は1件3,900円 | 財産の価額に応じた手数料がかかる。 |
| 家庭裁判所の検認 | 必要 | 不要 | 不要 |
| 死亡後の通知制度 | なし | あり | なし |

皆さまの大切な財産を希望通りに次世代へ引き継ぐために、また親族間の無用な争いを避けるために、遺言書の作成をお勧めしています。お近くの支店、渉外担当者、または相談課へご相談ください。

理事会だより

第8回定例理事会

令和6年11月29日(金)午後1時00分より、本店3階役員会議室において定例理事会が開催された。

● 監事会報告事項

1、令和6年度 仮決算監事監査報告

● 協議事項

1、『就業規程』の一部改正について

業務外の傷病により休暇となった職員にかかる復職要件を整備する所要の改正である旨が説明され、可決決定。

2、『給与規程』の一部改正について

新採用職員の初任給見直しに伴う所要の改正である旨が説明され、可決決定。

3、『信用事業方法書(為替取引)』の一部改正について

（閉会）

令和6年3月末で普通送金の取り扱いが廃止され、送金小切手の提示受付期間が令和7年3月末となっていることに伴う所要の改正である旨が説明され、可決決定。

4、令和6年度 年末手当(賞与)の支給について

令和6年度事業実績見込みおよび令和6年度年末手当は2・1ヶ月分として12月10日に支給することが説明され、協議後、可決決定。

5、大口融資の取り扱いについて

厚別支店扱いの大口融資1件について、それ

ぞれ申込事項・取り組み経過・資金計画・財務状況・保全状況・弁済見込み等が説明され、協議後、可決決定。

● 報告事項

1、農業協同組合経営体質強化指導事業に係る重点監視農協の選定について

2、再発防止策における取り組み状況報告

3、令和6年度 1統括支店1協同活動実施報告

4、令和6年9月期半期ディスクロージャー誌について

5、北海道農業信用基金協会に対する出資増口について

6、マネロン等の防止に係る対応状況(上期)について

7、農作物作況報告

8、10月末財務状況報告

9、10月末組合員加入・脱退状況

10、11月の動静と12月の予定について

(閉会・午後3時36分)

第9回定例理事会

令和6年12月27日(金)午後2時00分より、本店3階役員会議室において定例理事会が開催された。

● 協議事項

1、令和6年度 仮決算監事監査回答書について

令和6年11月1日から11月8日まで(2日か

ら4日を除く)実施された令和6年度仮決算定期監査および令和6年9月30日に行なわれた経済部・営農販売部・経済店等棚卸仮決算監査での「課題」下「改善願いたい事項」に対する回答(案)が説明され、可決決定。

2、令和7年度 理事・監事報酬の役員報酬審議会

への諮問について

令和7年7月から翌年6月までの理事報酬総額および監事報酬総額は、理事が7,370万円

の範囲内、監事が1,820万円の範囲内で諮問する事が説明され、協議後、可決決定。

3、令和7年度 肥料引取奨励金について

組合員の奨励施策の一環とする肥料の取りま

とめ分に限り、店頭引取をされた組合員に対する奨励内容が説明され、協議後、可決決定。

● 報告事項

1、再発防止策における取り組み状況報告

2、准組合員コンベンション2024 開催結果報告

3、地区別懇談会での質問・意見等の報告

4、令和6年度 第4四半期余裕金等運用計画額

および運用方針について

5、令和6年度 肥料引取奨励金の交付について

6、農作物作況報告

7、11月末財務状況報告

8、11月末組合員加入・脱退状況

9、12月の動静と1月の予定について

(閉会・午後3時43分)

札幌市農業支援センターは、移転・名称変更となります

現在さとらんどに隣接する札幌市農業支援センターは、3月3日から札幌市役所本庁舎内（中央区北1条西2丁目）に移転となります。移転に伴い、連絡先が「011-211-2416」へ変更され、4月1日からは名称も「農業支援課」へ変更となります。

| 4/1から | 名称 | 事務所所在地 | 連絡先 |
|-------|-------|-----------|--------------|
| | 農業支援課 | 札幌市役所本庁舎内 | 011-211-2416 |

令和6年12月末業務実績 令和6年11月末業務実績

| JAさっぽろ DATA | 組合員数 | 正組合員 | 3,762名 | 3,766名 |
|----------------|---------|--------------|--------------|---------|
| | | 准組合員 | 34,095名 | 34,084名 |
| | 合計 | 37,857名 | 37,850名 | |
| | 出資金残高 | 75億2千8百万円 | 75億8百万円 | |
| | 販売取扱高 | 40億3千6百万円 | 35億5千3百万円 | |
| | 購買供給高 | 23億6千1百万円 | 20億8千4百万円 | |
| | 貯金残高 | 3,732億3千1百万円 | 3,723億9千3百万円 | |
| | 融資残高 | 1,082億6千7百万円 | 1,080億8千3百万円 | |
| | 共済保有高 | 6,311億7千万円 | 6,326億8千2百万円 | |
| | 施設建設取扱高 | 6千5百万円 | 6千5百万円 | |
| | 管理受託戸数 | 4,725戸 | 4,766戸 | |

さとらんどからのお知らせ

❖お問い合わせはさとらんどへ直接ご連絡ください。
さとらんど 札幌市東区丘珠町 584 番地 2 (011) 787-0223

さとらんどでは、さまざまな講習を実施しています。
さとらんどセンターへ TEL または直接来場にて申込のうえ、ぜひご参加ください！

ふわっふわの
美味しい豆腐が
作れます♪

さとらんど とうふ作り体験

さとらんどで収穫した大豆と、天然にがりを使ってとうふを作ります。大豆の味をしっかりと感じられる手づくり豆腐の味は、格別ですよ！ ぜひ体験にご参加ください。

| | |
|------|--|
| 日 時 | 2月22日(土)・23日(日) / 3月22日(土)・23日(日) 13:30~15:00 |
| 会 場 | さとらんどセンター |
| 定 員 | 各日6名 |
| 参加費 | 1,000円 |
| 申し込み | 2月15日(土)から電話またはさとらんどセンター窓口にて受付 |

*完全予約制の体験です。必ず事前に申し込みをお願いします。



Column My best shot



寒さ厳しい環境の中で作業をしながらも、沢山のお話を聞かせていただきました。皆さん笑顔で、素敵なご家族でした。

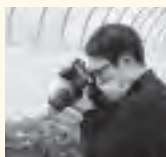


Photo by 曾我 孝博
2020年からフリーランスのフォトグラファーとして主に札幌市内で活動。今年度も引き続き「虹の大樹」表紙と巻頭写真の撮影を担当します。

JAさっぽろ公式 LINE お友達募集中!

JAさっぽろ公式 LINE では、各種キャンペーンやイベントなどのご案内を随時配信しています。まだお友達登録されていない方は、この機会にぜひご登録ください。

